

校長室だより

No. 45

平成31年3月15日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず  
加 藤 嘉 一

## 卒業証書授与式（6～4年参加）・お別れの会（6、3～1年参加）への願い

地域によっては、卒業式の流れも様々なようです。会場の形も子供同士、または子供と保護者を対面して座る形など、それぞれの学校で意味をもって行っていると思います。わたしもこの4年間、式の配置は、卒業証書授与の意味と6年生を主役にする意味の2つを大切にし、今の形で行っています。



【本年度 卒業式練習】

4年目でも形は変えません。しかし、今年わたしが一番大切にしたいと願っているのは、「心を大切にする」ことです。

卒業式は、これまでの学校生活で行っている集会や式とは重みが違い、きちんとした式の意味と形を理解し、中学校へ進んでほしいと思っています。式に臨む座る姿勢から礼の仕方、「回れ右」をはじめとした一つ一つの動き、立ち居振る舞いも、最後の姿として美しくできるようにしてあげたい。ですから、よくある卒業式の練習の風景としては、指導者が「1、2、3、4、5」とカウントし、礼のタイミングを教えています。しかし、今年は、練習でそれをやめてもらうことにしました。その理由は、以下の思いからです。

### 2学期終業式式辞より 一部掲載

さて、少し早い話になりますが、卒業式の練習の話をしていきます。

4から6年生は卒業式に臨みます。1から3年生は、お別れの会があり、この2つの式は一年で一番大事な式です。なぜなら、6年間のすべての頑張りを、全校でお祝いする時だからです。6年生は6年間教えてもらったことのすべてを生かした姿を、5年生は5年間学んだことのすべてを、1年生は1年間教えてもらったことのすべての一番よい姿を見せる時です。たとえば、姿勢にしてもよい姿勢は「背筋を伸ばしましょう」と教わっています。動きは「静と動のメリハリをつけると美しい」ことを体育祭で学んでいます。返事も「元気よくしましょう」と教わりました。そう考えれば、式の時に礼のタイミングを『1、2、3…のカウントで』などということは、卒業式やお別れ式の練習でしなくてもよいはず。6年生がする返事も、わざわざ全体の式の練習でする必要はないはず。卒業式の流れなど、どうしても先生たちに教えてもらわなければいけないこともあります。それは先生たちの方が教えてくれます。でも、少なくとも、式の参加の仕方、礼の仕方、返事の仕方は、式の練習の時にはしないように先生たちにもお願いしようと思います。あなたたちが入学してから学んだ最高の姿を考え、参加してほしい。卒業式やお別れ式は、6年生のために心を込めて「全校」で「全力」でお祝いする式にします。そのために、みんなは、これまでの学校での学びを振り返り、まだ足りないなと思うことを、3学期にしっかり学んでほしいと思います。

わたしの願いは、全体の形だけに意識をおくのではなく、会に参加する子供が、学校生活の学びを振り返り、自分の一番の姿はどうあるべきかを考え、表す式にしたい。そして全校の子供と職員が、その姿を「全力」でお祝いすることです。そのために、職員に終業式式辞のことに加え、次のことをお願いしています。

- ① 卒業生がこの6年間を振り返られるように、予行の場などで、6年生が教えてもらった先生方から、6年生の子供たちと過ごした日々の思い出、当時の子供の姿、そこに至る成長、伝えたいメッセージなどを話してほしい。

6年生には、先生方の話から小さかった頃の自分を思い出し、今の自分とつなぎ、この卒業式で、どんな姿を表現すべきか考えてもらいたいです。

そして、今回最も「心」をテーマにし会を変えたのが、1～3年生と6年生で卒業式前に行う「お別れの会」です。以前は、運動場で6年生と1～3年が対面し、3年生の代表と6年生の代表が言葉を交わし会を終えていました。6年生と1・3年生はペア学年として学校生活を送っています。2年生でも通学班と一緒に登下校しています。その最後のお別れを、もう少し大切な会にしたいと思い、2年前に体育館の式場で行うことにしました。さらに、昨年、1・6年生のペア学年を対面できる形の並びにしました。



【昨年度 お別れの会】

そして、今年以下のようにしました。

- ② 1・6年はペアで入場する。しかし、退場は「この瞬間からお別れ」の意味で6年生だけで退場する。
- ③ 1～3年生のどの学年も、全員で6年生へ言葉をかける形にする。
- ④ 代表の先生のお話はなしにし、1～3年で「校歌」「ありがとうの花」の歌を送る。

これは、教務主任の稲垣先生が中心となり、各学年主任の先生方が知恵を出し合って考えてくれました。下のようにそれぞれの先生も一生懸命考えてくれています。わたしたちは、心を込めて精いっぱいのお祝いをしたいと思います。

### 本多先生の教師メモより

今週から卒業式の練習が始まった。在校生の練習をはじめるときの話は、「卒業式が学校の中でどれだけ重要であるか」、そして「そんな卒業式に参加する在校生代表の4・5年生は、どんな気持ちで練習や式に参加するとよいか」を話した。5年生は昨年度の経験、そして来年度最高学年ということもあり、多くの子が自分なりの自覚をもって練習に取り組んでいたように見える。しかし難しいのは4年生。4年生にとっては初めての経験であり、第1回目の練習では、やらされている感があったと思う。だから、4年生に、5年生がどんな思いで練習に臨んでいるかを話した。

5年生では、「6年生のためにどんな卒業式にしたいか」「そうできるように、今日の練習ではどこをこだわって練習するか」毎日の練習で自分なりの課題をもたせ取り組んでいる。5年生の思いを子供の声で4年生に伝え、4年生も同じような自分なりの課題をもたせることにした。今後そのような形で子供の気持ちを持続させ、高めていく。これは、教師の力量である。

【3月8日（金）】